



## 園芸作物栽培に関する

### これからの対策

# Q & A

#### ◎4月の気象と農作業

気象庁の長期予報では4月はやや気温が高く、降水量は平年並みとされています。初夏にかけては気温は高く推移する傾向で降水量もやや多めとされていることから、こうした気象への移行期の始まりとなりそうです。このような状況の中で今年も書田や病害の多発が懸念されますので、農薬の土壌処理など予防防除が欠かせなくなってきました。また、近年春の強風被害も目立ってきており、菜園での夏野菜の植え付けは4月末からとなりますので中旬から圃場の準備に入ります。土づくりとして堆肥と石灰は早目に施用し荒起ししておきましょう。

#### ◎越冬野菜の管理

越冬野菜は遅霜による被害が出やすい時期です。特にソラマメは寒さに弱いので降霜予報が出された日には夕方に不織布(パオパオなど)で覆い保護を図りましょう。  
4月中旬までには排水溝の掘り直しと併せて2回目の追肥(化成肥料を1a当たり4〜5kg程度)を行うことも、ゾルドール剤など殺菌剤を散布しておきましょう。また、「イチ」は赤くなった古葉も掻き取っておきましょう。  
昨年同様、暖冬傾向となっており今年もタマネギのトウ立ちが懸念されますが肥料切れや排水不良で生育が停滞するトウ立ちにはさらに多くなりやすいので注意しましょう。  
また、暖冬の影響で圃場に雑草がはびこっています。暖かな日を選んでバスタ液剤やラウンドアップなど除草剤を撒いておきましょう。気温が低い時期なので効果の発現は遅くなりますがやがて枯死に至ります。

#### ◎ハウス管理

4月のハウス内の気温は年間でも最も寒暖の差が大きくなる時期で、低温と高温障害の両方を心配しなければなりません。最高最低温度計を設置し、テックは欠かさないようにつけてください。

まじょう。

#### ◎予防防除の徹底

暖冬傾向の中で冬を生き延びる害虫が多くなり被害が多発してきています。特に生育初期段階での被害は影響が大きいため、植付け時の土壌処理剤施用は欠かせなくなってきました。

#### ◎単粒と団粒

細かい粒だけの土を「単粒」といい、この単粒がくっついて塊になったものを「団粒」といいます。単粒の土はちょっとした雨でドロドロになり、乾燥すれば硬く締まってしまうので野菜の生育障害がおりやすくなります。団粒構造が発達した土は微細な孔隙が多く保水力に優れるとともに、大きな孔隙は余剰水の排水や通気が良くなるので作物の生育が良くなります。

#### ◎団粒構造の発達

土を耕すだけでは団粒構造は発達しません。堆肥を施用することでミミズや微生物、土壌細菌の活動が活発となり、それらの分泌物が土と土をくっつけるので団粒構造が発達します。こうしてできた団粒は少々の水にあっても簡単に崩れないので、作物の根がしっかりと張り健全に生育するのです。化学肥料の過剰使用はミミズや微生物などが住みづらくなるので団粒構造は発達しにくくなります。



土を取り、水を加えて振ると団粒構造が未発達(左)は泥状となる。



#### ◎自家育苗に挑戦

春夏野菜苗の購入額も馬鹿になりませぬ。少し遅めですが4月中旬までに植えるつもりであれば、室内の日当たりの良い窓辺を利用して育苗ができます。ポイントを載せますので自家育苗に挑戦してみてください。

#### ◎容器の管理

適当な大きさの発泡スチロール容器と6cmポットか72穴のセルトレーを準備

#### ◎上手に出来る家庭菜園のポイント

いよいよ今年の菜園がスタートします。今年こそはうまく作りたいとだれもが願いますが、守るべき基本的なことをしっかりと把握していることが肝要となります。以下にポイントを手とめましたので参考としてみてください。

#### ◎排水の徹底

野菜の根が気持ちよく伸びていけるよう排水の徹底を図るとともに、水捌けの悪い圃場では高畝栽培に努めましょう。

#### ◎適正な植栽間隔の確保

野菜の葉が十分に光合成を行えるためには、作物ごとに一定の植え付け間隔が必要となります。通風採光を確保することが良品生産のポイントです。

#### ◎軟らかな土壌づくり

団粒構造が発達していると空隙が多く軟らかな土壌となり野菜の根張りが良くなります。化学合成肥料に頼り過ぎると土中の微生物が少なくなり土は徐々に硬くなってしまいます。毎年少しすつでも良質堆肥を入れていきま

#### ◎適期播種、適期定植

現在栽培されている殆どの野菜は気象条件も様々な外国生まれです。従って播種や定植の時期も適期があり、このことをわきまえて作業することが大切です。適期を外した栽培をする場合はそれなりの知識と技術が必要となります。

#### ◎適正施肥

人も腹八分目が良いとされているように野菜も肥料のやり過ぎはかえって正常な生育を阻害してしまいます。作物や肥料銘柄にもよりますが元肥で1a当たり概ね15kg追肥で3〜5kg程度です。また養分のバランスも大切に尿素、硫酸、鶏糞の使い過ぎは避け

備します。培土(市販の良質なものを)を詰めて播種、覆土をしてから新聞紙を被せ、容器全体を半透明のビニールなどで覆います。

#### ◎播種時期

概ね枝の開花始め頃が播種時期となります。健全な株に育てるため種は厚時きとならないよう適正な間隔を保って蒔きます。

#### ◎発芽管理

室内育苗では発芽温度のコントロールは難しいので発芽に時間がかかるとともに、発芽もバラつきますがマメに管理をすれば発芽してきます。注意すべきは晴天日の直射日光を受けて容器の中が高温になり種が煮えてしまふことです。発芽が始まったら新聞紙は早めに取り除きましょう。取り遅れると徒長した弱い苗になります。

#### ◎水やり

育苗土の表面が乾き始めたマメに水を与えましょう。水は20〜25℃くらいのぬるま湯として午前中にやります。陽の射さない日は水やりは行いませぬ。

#### ◎育苗のポイント

しっかりと苗に仕上げるためには発芽後の管理が重要で、日中はしっかりと陽に当てることと覆いをすうして換気します。また水をやり過ぎないように注意しましょう。夜間はタオルなどをかけて保温に努めます。

#### ◎直播野菜について

4月に入りますと大根、カブ、ニンジン、ほうれん草、春菊、小松菜など直播野菜の播種が始まります。この時期はまだまだ気候が安定し難いので、圃場準備は暖かい日を選んで早めに取り掛かり、光を通すマルチを使用するなど地温の上昇を図り発芽の促進を図りましょう。



#### 菜園Q&A

よく「去年はうまくいったのに今年は何かおかしい。施肥ははじめ、することも去年と同じようにしたのに？」といった相談があります。しかし野菜作りは自然環境の中で行うので気温、地温、水分、病害虫の発生、土壌養分の状況など同じ条件が揃うことはありません。上手いかなかった要因を考える習慣をつけることが失敗を少なくすることにつながると思います。

#### 好光性種子と嫌光性種子

作物の種子には発芽に光を必要とする好光性種子と光はいらない嫌光性種子があります。ウリ科、ナス科、豆類などは嫌光性のものが多くありますが、これら以外の種子は深蒔きせず覆土は少なめとしてください。



大門 優  
園芸アドバイザー

お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499